

2学年 学年だよ



令和4年12月9日
大和市立つきみ野中学校
第16号

人権講話『自分も相手も大切に作るコミュニケーション』

11月25日（金）に吉井奈々先生をお招きし、人権講話を行いました。約90分という時間でしたが、テンポの良いお話で、あっという間に感じた生徒が多かったことでしょう。『男性に生まれ、女性となり、結婚をして幸せをつかんだ』吉井先生が学生時代に悩んでいたこと、コンプレックス、様々な人から受け継いだ言葉によってポジティブな考えが持てるようになったことを分かりやすくお話ししてくださいました。自分を好きになり、よりよく生きていくための考え方を印象的な言葉でたくさん教えてくださいました。心を動かされたことがうかがえる感想文がたくさんありましたので、紹介します。



〈Q. この講演を聴いて「これから変えられたらいいな」と思うことは何ですか？〉

- この講演をきいて、自分をほめることも好きになることも大切にすることも、今すぐにはできないけれど、自分に優しくしたいと思いました。誰かに嫌われることや人にどう見られているかなんて関係なくて、どう人と付き合っていくか、ちゃんと考えていきたいです。（1組）
- 友だち関係のことを親にとやかく言われて、反論できないでいましたが、今回の講演を聞いて、勇気をもらいました！ もう少し親とも自分とも話し合って、より良い「自分」を作り上げていきたいと思います。（1組）
- 自分の好きなことにすべてをそそげるような人生にしてみたいなと思いました。そのためには、今のうちに自分のことを認めてあげること、大切にしていること、一人の人間としてあつまってあげることができるように、心の筋肉をつけていきたいなと思います。（2組）
- 1日に1分間自分をほめて「自分なんか」「他の人の方が」という考えるくせを無くせたらいいなと思いました。（2組）
- 相手に伝える言葉に「名前」と「♪」をつけて、お互い気持ちがよいコミュニケーションになるように意識していきたいなと思いました。（3組）
- やりたくないことは無理してやらずに、やりたいことを優先して自分らしく生きていけたらいいなと思う。「嫌われてもいい」という考えをもって気負わずにいきたい。（3組）
- 1分でもいいから、自分が幸せだったことや、自分の良かったところをほめたいと思った。また、自分が周りとは合っていないけど、たまたま合わなかっただけだと考えられるようになりたいと思った。（4組）
- 自分がやりたくないことは、ちょっとだけやってみる、という選択肢を増やしていきたい。無理にやるよりもやらない方が気持ちも軽いと思う。（4組）



- 「疲れた時、悲しい時にこそ自分を大事にする」ということを忘れないようにしたいです。また「どんな人に会うか、その人にどんな言葉をもらうかで人生は変わる」という言葉を聞いて、この先、出会う人々を大事にすることができたらいいなと思います。(5組)
- 自分を大切に生きて、自分の生き方を見つけられるようになりたい。自分が幸せになり、その幸せを誰かに分け与えられるような人間になりたい。自分のやりたいことができるようになりたい。(5組)
- 好きなことを自分で守りながら楽しむこと。また自分と違うから「おかしい」のではなく、自分と違うから「いい」と思えること。主観や先入観ばかりでなく、客観的に見るのが大切だと思った。(6組)
- 今日の講演の中には、自分にもあてはまる話がいくつもあった。最後におっしゃっていた「ゆっくり、ゆっくりでいい」という言葉だけでも、救われる人はたくさんいると思う。私もゆっくりポジティブに変わっていきたい。(6組)
- 過去の自分を思い出して自分を責めてしまう習慣は、すぐには直せないけれど、辛い過去を思い出すよりは、明るい未来について想像してみたい。(7組)
- 自分に正直に、楽しく生きていけるようにしたいと思った。大人になっても暗く生きていかずに、やりたいことをたくさんやって一生を楽しく過ごせるようにと思った。(7組)
- 奈々さんがおっしゃっていた「人は嫌われないように生きなくても良い」という言葉が心に響いた。自分も嫌われてしまうんじゃないかと考えずに、適度に嫌なものは嫌だと言えるように変わりたい。(8組)
- 自分の嫌いな人に好かれようとする必要はない。そして自分の嫌いな人に好かれるために自分の好きなことを隠す必要はない。自分の好きなことをバカにするような人は、そもそも自分とは縁のない人だ、ということ踏まえて自分の「好き」を大切にしたい。(8組)
- ネガティブにものごとを考えたり、自分はだめだと考えるのではなく、毎日幸せな瞬間を1分間考えるようにして、ポジティブな思考をだんだんもてるようにしたい。(9組)
- 自分を嫌いにならないようにしたい。自分の考え方を変えたいと思った。(9組)



〈授業のふりかえり〉

- 私は元々「女子カー！」よりも男子力(?)のほうが強く、小学生のころはそれだからかわれたりもしていました。ですが、吉井さんの話をお聞きし、男と女は関係なく1人の人間として生きることを考えさせられました。私たちはまだ学生という箱の中に入っていて「子ども」ですが、吉井さんは自分という1人の人間を大切に、生き生きとしており、とても「大人」でカッコよく美しかったです。(1組)
- 吉井先生の講演を聞いて「いい人」や「いい子」を演じることよりも、自分の好きなことや意思を貫くことが大切だと気がついた。(1組)
- 自分を大切に、自分に素直に生きてみたいなと思いました。自分を認めてくれる人と関わっていきたいです。(2組)
- 自分をほめること、好きではない人とあまり関わらなくていいこと、など自分にはない考えを持てるようになった。(2組)
- あれをやらないといけない、これをしなければいけない、などと縛られずに、自分の好きなように選んでいいんだと、新たな発見があった。(3組)
- 「嫌われたくない」と思っていたけれど、「嫌われてもいい」というふうに考えていいんだ、という新しい選択肢を知ることができた。(3組)

- 無理やり友達と付き合わなくていいんだってことが再確認できた気がする。(4組)
- 自分と周りが合っていないなくても、たまたま合わないだけだ、と考えることができれば、気が楽だと思った。(4組)
- 自分を大切にすることは、周りを大切にすることにもつながっていくものだと知ることができた。また人の生き方について学ぶことができた。(5組)
- 自分のこれまでしてきたのとは異なる考え方に、新たな発見や気づきがありました。(5組)
- お互いを認め合うことは簡単なことではないが、認め合えたらきっといい社会になると思った。(6組)
- 自分がしてみたかった考え方に、今日初めて気づいた気がする。(7組)
- 講話を聞いてこれからの生き方や、今までの生き方を見直そうと思った。(7組)
- 他人のために自分を変えたり、他人に好かれるために自分を変えるのではなく、自分のために自分を変えるというのが大切だということに気づけた(8組)
- この講演を聞いて、自分の性質について考えることができた。これからは、自分の気持ちというものを大切にしたいと思った。(8組)
- 悪い一面を見るのではなく、幸せな瞬間を毎日考えるようにして、気持ちを楽に過ごしていけたらと思いました。(9組)
- 世の中にはまだまだ私の知らない人がたくさんいるなと思った。どんな人の意見も尊重し、一人一人が輝けるような世界になれるといいなと思った。(9組)



芸術鑑賞『雨ふり小僧』

11月30日(水)に「芸術鑑賞」がありました。今年度は劇団「民話芸術座」の方々にお越しいただき、手塚治虫作の『雨ふり小僧』を鑑賞しました。マイクを使っていないにもかかわらず、体育館中に届く劇団員さんの発声や、照明と音響による雨や雷の迫力ある表現に、生徒は真剣な表情で物語の世界に引き込まれている様子でした。ストーリーもとても示唆に富んだもので、生徒たちは様々なことを考えたようです。感想文の一部を紹介します。



「すばらしい劇」

本日の演劇とても面白かったです。劇を通して役者さんの技術ってすごいなと感じました。セリフは小さめの声でいっているように聞こえるのに、ハッキリ聞き取れましたし、モウ太がいじめられているときのスローモーションは、一瞬映像を見ているのでは、と感じる程でした。お話の内容もとても良かったです。雨ふり小僧がモウ太の長靴を持ってきてくれると信じて待ち続けるところや小豆洗いのじい様の言葉など、普段の私たちの生活を反省することしきりでした。改めてとてもいい作品、演技でした。このような素晴らしい劇を見せていただきありがとうございました。(1組)

「信頼する雨ふり小僧」

このお話の1人1人の登場人物の声や動きが、とても特徴的で面白味が増した。ほとんどの妖怪は人間のことを信じないが、モウ太と仲良くなった雨ふり小僧は40年間長靴をもらう約束をして信頼してきた。人間を信じる雨ふり小僧に感動した。約束があればすぐに守るべきなど、いろいろなことを考えさせてもらった。普段このような劇をみる機会はないが、よい機会になった。話の構成や人物たちすべてが面白かった。(1組)

「雨降り小僧」を見て思ったことが3つあります。1つ目ははじめをするのは良くないということです。人によって対応を変えたり差別するのは良くありません。2つ目は、人を信じて行動することの大切さです。すぐにあきらめたり、信じるのをやめたら、後悔することもあるだろうと思いました。3つ目は自分の意思を貫いて行動することの大切さです。雨降り小僧はみんなから「もう戻ってこい」と言われていたけど、待ち続けました。その結果、もう太と再会できたので、意志を貫くことは大切だなと思いました。(2組)

僕は「人は約束なんてすぐ忘れてしまう。」という小豆洗いの言葉が心に残りました。なぜなら、僕も親との約束をやぶってしまったことが何回もあり、その度に家族を傷つけてしまったからです。もう太は40年も雨降り小僧との約束を忘れてしまいましたが、結果的に約束を思い出し、そのことを雨降り小僧に伝えた上で長ぐつをあげていました。人は確かに約束を忘れてしまいます。それはしょうがないことなのかもしれません。しかし、大切なのはその後の行動なのだと思います。なので、僕はこれから約束をやぶってしまったら、その後の行動で反省の意を示していきたいと思います。忘れないような努力も…(2組)

本日はありがとうございました。目の前で劇をしてくださったので、テレビよりも迫力があり、わくわくドキドキしながら楽しむことができました。今回の劇を通して、僕は友情と約束の大切さがわかりました。40年たってモウ太の言葉を信じた雨ふり小僧の信じる力、モウ太の信じられる信頼関係、心動かされるシーンがいくつもありました。これからの生活で雨ふり小僧のように友達を信じ、モウ太のような信頼関係が持てるよう行動していきたいと思いました。これからのいろいろな子どもたちをドキドキわくわくさせるような劇を披露して、一人でも多くの子どもたちにメッセージが届くように頑張ってください。(3組)

本日はお忙しい中、私たちのために演劇を見せてくださり、誠にありがとうございました。劇団民話芸術座さんの演劇を拝見して、友情とは何なのか、約束や信頼がどんなに大切なものなのか、を改めて考えさせられました。本当の友情というのは、お互いのピンチを助け合ったり、楽しいことを共有したりして生まれるのだと思います。一方的に自分の強さを見せつけても友情は生まれません。そして、信頼は友情から生まれ、約束は一緒に叶えるものなんだと気づくことができました。それらを、これからの生かしていきたいと思います。(3組)

人は忘れながら成長していくんだなと感じました。妖怪たちと楽しく話していた頃と、忙しく働く大人の今と、モウ太にとってどちらが幸せだったのだろう、と考えさせられます。もしかしたら人は、幸せを追い求めているうちに、本当に大切な子どもの頃の素直な気持ちを忘れてしまうののかもしれません。私たちもモウ太と同じ中学生で、彼のように自分のことだけに夢中になり、あっという間に時が流れてしまうこともあります。しかし、今だからこそ体験できること、今しか経験できない気持ちがある、とこの演劇を見て気づくことができました。本日は本当にありがとうございました!!(4組)



雨が降る場面、雷が鳴る場面、嬉しい場面、悲しい場面に合わせて背景が変えられていて、とても臨場感がありました。とても楽しい時間でした。たとえ40年が経っても約束を信じぬく雨ふり小僧のもとに、約束を思い出したモウ太がかけよったシーンでは、「約束は守る」というモウ太の言葉は、40年の時を経て、本当になったのだと感じました。(4組)

それぞれのキャラクターに個性があり、魅力的でした。雨降り小僧の、モウ太を信じて40年も待っている姿も、モウ太の、40年経って約束を思いだし達成しようとしている姿も、すごいなと思いました。演劇は、お客さんの前でやるので、やり直しはできません。劇団のみなさんは、細かいところまで丁寧に演じられ、動きが全然ずれないところが、すごいなと思いました。(5組)

モウ太のように、大人になると大切だったことを忘れてしまうのは、悲しいなと思いました。モウ太は思い出すことができたけど、普通の人だったら思い出すことはないだろうなと思うと、人間って悲しい…・雨降り小僧みたいにずっと信じて待っているのも、かなりしんどいし、悲しいと思うけど、私も人を疑わず、信じる人になりたいと思いました。そして、自分の家が火事になったすぐに駆け付けてくれた町の友達とモウ太のような素敵な人間関係を築きたいと思います。素敵な演劇をありがとうございました！！感動しました！(5組)

今回は「雨ふり小僧」を見せていただきありがとうございました。今回の劇を通じ、だれかと約束をするときは、責任をもたなきゃいけないということを教えられました。これからはだれかと約束をするときはちゃんと果たせるかなど考えてから、責任をもって約束をしようと思いました。また、雨ふり小僧のように人を信頼し、気長に待てるような優しい心を持ち、生きていこうと思いました。ありがとうございました。(6組)

友だちを大切に。約束は必ず守る。人のことを信じる。そんなことを改めて思い起こさせるようなとてもいい作品でした。40年もモウ太のことを待った雨ふり小僧はモウ太のことを大切に、モウ太のことをいつでもずっと信じる優しい妖怪でした。僕もそういう人(妖怪)みたいになりたいと思いました。町の悪ガキも最初は人のことを殴り、からかう悪い印象のガキでしたが、大親友となると友だちを優しくし、モウ太の家が火事になったら心配してくれるという優しい一面があって、人は最初の行動で判断しちゃいけないなと思いました。(6組)

今日はすてきな劇をありがとうございました。モウ太の成長や人間関係など、たくさん考えさせられる場面がありました。とくに、モウ太が雨ふり小僧との約束を思い出したとき、とても心がすっきりして、友情って言葉にできないくらいすごいんだなと感じました。そして40年も待ち続けた雨ふり小僧におどろき、2人の強い絆も感じました。(雨ふり小僧がかわいかったです)。モウ太が大人になって、子どもができたとき、3世代集まる家族のあたたかさもほっこりするような気持ちになりました。モウ太はガキ大将とけんかばかりするけど、本当は仲良くなりたいという気持ちが伝わってきて、でもこらしめてやりたい気持ちもあったりして、登場人物に魅力があって、とても楽しい貴重な時間になりました。(7組)

雨ふり小僧というタイトルからは、内容の見当がつかなくて、どんな物か楽しみでした。観劇し終わってみると、内容は分かりやすくすてきな物や、現代社会にも通ずる深いものがあって、とても面白かったです。特に、妖怪たちの会話の中で、小豆洗いが言っていた、「自然をどんどん破壊していく」というワードには、確かにその通りだと強く共感させられました。モウ太と雨ふり小僧の約束で、最後雨ふり小僧が、小豆洗いの「なぜそれだけ来るのが遅くなったのか」という問いには答えず、「長靴を持ってきてくれたらなら、それでいい。」という雨ふり小僧の答え方が、本当に優しさに満ちていて、すてきだと感じました。この先、様々な事を経験し、裏切られることもあるとは思いますが、雨ふり小僧のように、強く人を信じ抜ける人になれるよう、これから生活していきたいです。(7組)



私は劇に対して知っていることがほとんどありませんでした。だから劇を見るとき、劇の知識を必要とする場面がでてきたらどうしようと思っていました。しかし内容は誰にでもわかりやすく、かつ、考えさせられるもので、とても感動しました。俳優の皆様の演技も、演技ではなく、登場人物がそのまま舞台に立っているように感じられました。本当にありがとうございました。これからも応援しています。(8組)

モウ太がどんどん成長していく間に、自分も学ぶことがあったな、と思いました。自分もモウ太と一緒に野球をしています。モウ太の野球をすごく楽しんでいる姿を見て、全力で楽しむのは今だけなんだな、と思いました。また、雨ふり小僧もきっと持ってきてくれると信じて40年も待っている姿を見て、モウ太と雨ふり小僧の友情を感じました。自分もそんな大切な友達がいるからこれからも大切にしていきたいです。本日はありがとうございました。(8組)

本日はお忙しい中、つきみ野中学校におこしくださり、ありがとうございました。今日の劇で、家族や友人との関係や約束を守ること、信頼をされるということについて深く考えさせられました。また、皆様のおしばいに圧倒され、とても楽しいひとときとなりました。特に印象に残った場面は、雨ふり小僧がモウ太のことを信じ続けて40年間待っているところです。改めて、人間は愚かだけど、長い間が経っても記憶からその時大事だと思ったことが全て欠落するとは限らないんだなと思いました。本日は素敵な劇をありがとうございました！これからもがんばってください。(9組)

本日は劇をしてくださりありがとうございました！今回の劇で私は、「信頼」というものに感動しました。仲良くなった雨降り小僧とモウ太の友情は、時間が経って形が変わってからも確かに存在し、「信頼」も消えるものではなかったということが分かりました。きっと、雨降り小僧は、モウ太のいいところをたくさん知っていたからこそ、待たされても、嫌ったりしなかったのだと思います。私もこれから人を嫌ったりせず、その人の「良いところ」を思い出し、その人自身を受け止められるようにしたいと思いました。そして私も人に信頼されるような人間になりたいと思いました。本日は色々な思いがあふれる劇を本当にありがとうございました！！劇で教わった事を忘れずに、これからのことに生かしたいと思います！！(9組)



ラジオ放送のお知らせ



12月2日(金)にキャリアチャレンジデイが行われ、FM やまとの方が授業の感想を3名の生徒にインタビューしてくださいました。

12月11日(日)の「サンデー・アート・あわー」という番組で14:30頃から放送の予定です。

お時間があれば77.7MHzにチャンネルを合わせお聞きいただけると幸いです。